

## 交通政策について (市営バス事業における経営改善の取組について)

### 1 交通事業の現状

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、乗合収入が令和元年度と比較して約23%減少したことなどにより、累積資金剰余が約3.6億円まで減少した。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが第5類になったものの、乗合収入が令和元年度と比較して、約2割減で推移しており、「乗合収入」がコロナ禍前の水準まで回復せずに推移していくと想定している。



### 2 令和5年度の経営改善に向けた取組

#### (1) 経営状況の市民周知

##### ア 市民への情報発信の強化 (別紙1のとおり)

##### (ア) 目的

市営バスの情報等を積極的に発信 (市営バスへの理解・親しみの醸成)

##### (イ) 取組内容

- イベント等に出展し、運転者体験などを実施
- SNS (X、Instagram等) を活用し、市営バスの情報をリアルタイムに発信

【SNS発信の概要 (令和6年1月末現在)】  
投稿数: 136件 (週2~3件程度投稿)

## **イ 危機感共有の取組**

### (ア) 目的

- ・生活の足を守っていくために、市民に市営バスの現状を分かりやすく周知し、危機感を共有
- ・これまで以上のバスの利用を促進（月2回乗ってもらう）

### (イ) 取組内容（令和6年1月29日から周知開始）

ポスター・チラシを作製し、各所に掲示、配布

- ・営業所、案内所、バス車内、バス停、SNSやホームページの活用
- ・企業や大学、高校等への働きかけ

### (ウ) ポスターデザイン

別紙2のとおり

## **ウ アンケートの実施**

ポスター及びチラシにQRコードを貼付し、利用者の声を今後の施策に反映

## (2) 経営状況の分析、収支改善に向けた取組の検討及び実施

### **ア 増収対策**

- 乗合バス利用者の拡大
  - ・企業誘致を促進するための路線整備（学術研究都市、響灘地区）
- 貸切・受託事業の営業強化
  - ・若松区の観光地化との連携

### **イ 筋肉質な経営体質への転換**

- 運行エリアの見直し
  - ・効率的・効果的なダイヤ編成の見直し
  - ・維持すべきエリアと維持困難なエリアの整理
- 適正な運賃体系の検討
- シェイプアップに向けた取組
  - ・車両整備計画や施設整備計画等に基づく取組
  - ・一步先の先進技術に関する調査研究（ダイヤ、EVバス等）

### **ウ 利用者サービスの向上**

- SNS等による利用者との「つながり」強化
  - ・広報計画に基づく広報活動（SNSの活用など）
  - ・利用者アンケートの実施→利用状況も踏まえた改善

### **エ 運転者確保**

- 新規運転者の確保
  - ・運転者確保に向けた処遇改善
  - ・若者や子どもの関心を高める取組
- 運転者の効率的な勤務体系の構築

### **オ 市営バスのあり方**

- 市営バスのあり方と役割
  - ・「市営バス事業のあり方・役割」検討会
  - ・本市における公共交通の将来像と実現策に関する検討への参画

### 3 今後の取組予定（令和6年度）

#### （1）有識者の意見聴取等

経営改善の具体的な項目等について、有識者の意見聴取を行う。

#### （2）経営状況の分析、収支改善に向けた取組の検討及び実施

令和5年度に引き続き実施

### 【参考】令和6年能登半島地震に対する交通局の支援

#### （1）支援内容

市職員輸送業務

- ・1月20日から21日にかけて、第1班（16名）を北九州市から被災地まで観光バスで輸送
- ・1月22日から毎日、宿泊先から輪島市役所まで市職員を輸送

#### （2）支援期間・派遣人数等

- ・令和6年1月20日から約1か月間（予定）
- ・運転者延べ9名（支援期間中の派遣予定数）、観光バス1台派遣

「市民への情報発信の強化」について

1 イベントへの出展

○若松みなとまつり



○エコライフステージ



2 SNSでの情報発信

○日本バス協会主催「日本のバス120年企画『SNSによる写真投稿』」



○SNSの投稿内容（閲覧数：約5.3万件【R6.2.1現在】）



# これからも バスを守りたい…



## 危機的な状況

# 「ピンチです」

市営バス乗っている人は

「あと月に2回」

乗っていない人は

「月に2回」

**「通勤」「通学」「お買い物」**  
 便利な市営バスをご利用ください！  
 乗ってまもろう、公共交通  
 (バス・電車・タクシーなど)

アンケートに  
ご協力ください



## 市営バス全職員からのお願いです

## ★チラシに込めた想い“作成担当者（元運転者）”★

### エピソード1

～ ただ運転が好きといった理由だけで入局した交通局 ～

交通局に入局する前も大型に乗っていたので  
運転に関しては何も緊張感はなかったが  
その甘い考えが一変する  
レベル高い接客・接遇、そこに運転技術  
自分自身器用な方ではないためか  
車内・車外の安全確認、案内放送、接客、運転操作すべてが同時進行  
試行錯誤の連続だった記憶しかない

長い研修を終え、初めての一人乗務、緊張しながら若戸大橋を運行したことは、今も鮮明に覚えている

当時はバス利用者がとても多く、一部の路線では通勤通学時間帯の臨時便ができる程だった。  
そのため運行が遅れ、お客様にお叱りを受けることもあったが  
お客様からのあたたかい声も沢山あった。その中でも「あんた運転上手だね」この言葉が一番印象に残っている

同年代の仲間も沢山いる職場で、それなりに楽しく緊張感もって運転業務に徹していたが、ある日、異動で状況が変わる

### エピソード2

～ ドライバーから事務仕事へ ～

そこは事故や苦情、新人の教育をするところである。それには、同僚と笑った  
どちらかといえば、してはいけないことをしたくなるタイプ そんなお堅いところで勤まるのか、といった会話したことを覚えている

覚悟を決め、新たな職場で頑張る

ただ、そこには鬼軍曹のような上司がいた。普段はとても優しいが怒ると人が変わったかのように鬼へと変身する そんな上司から、お客様の安心・安全を確保するために「やさしさだけではダメだ。少しの油断が重大事故につながる」と指導教育について、徹底的に教わった。しかし、鬼にはなれなかった

そんな数年間も人事異動で  
次の職場はデリケートな上司が沢山いる。いままでの体育会系とは少し印象が違う  
そんな職場で交通局の内情を知ることになる

### エピソード3

～ さらなる異動で管理部門へ 経営状況がピンチ！ ～

バス利用者が少なくなっていることは分かっていたが、このままでは・・・  
交通局の存続ができない程に激減  
コロナの影響なのか、生活スタイルの変化でバス利用する方が減ったのか  
そんなことはどうでもいい

このピンチからの脱却が必要である

厳しい状況をのりこえるため、プロジェクトチームをつくり議論を重ねた  
交通局の物語は約100年近くある。その間、多くの方が利用し様々な思い出がつまんでいる。そんな物語を終わらせることはできない。

ただ、どう改善しピンチから脱却する方法がわからない  
満足いく経営状況で運行している時は、こんな議論はなかったはずだ  
ある意味、スキルアップを踏まえ、自分自身にも良い経験であることは間違いない  
いままでは削減するしか改善方法がなかったが  
それは逆効果なのかもしれない  
プラス思考も大事である。減らしてだめなら増やしてみる。そんな改善も価値がある。  
減らすことよりも増やすことを考えた方がやりがいは上がる

手探り状態の中、まずはチラシ・ポスターで交通局の現状を知ってもらいたい

### エピソード4

～ 市営バス乗っている人は「あと月に2回」 ～

～ 乗っていない人は「月に2回」 ～

ここからはバスを利用しやすい環境をつくっていくために（安らぎある市営バス）  
交通局全職員でピンチから脱却するために  
交通局の物語を後世に伝えていくために  
市民の幸せを運ぶために  
全職員で交通局の物語を続けていく・・・